

# 令和5年度の農業を振り返る

## 稲作

令和5年産の水稻の作況指数(県中央部)は「95」のやや不良となり、4年産に続き減収となりました。また、異常気象や高温下のなかで品質への影響もあり、1等米比率は過去最低の56.9%となりました。

### 播種～育苗期

育苗期間中は、気温が平年より高く推移し日照時間が多かった一方で、最高・最低気温が平年より極端に低い日があったことから、育苗期後半には「苗立枯細菌病」や「もみ枯細菌病」が平年よりも多く確認されました。苗の生育は全体的にはおおむね良好でした。

5月11日(木) 秋田市下浜「サキホコレ」苗代巡回▶



### 田植え～生育初期

田植えの始期は5月10日頃からで、盛期は21日頃となりました。この時期の気温は周期的に変化し、前半は低い一方で後半は高く、一時は強雨もありましたが、比較的好天での田植えとなりました。順調に活着した圃場では初期生育がよかった一方で、一部圃場では6月に入ると気温の低下から初期生育(分けつの発生頻度)の停滞が見受けられ、莖数不足が懸念されました。

5月18日(木) 秋田市河辺▶



### 生育中期～出穂期

7月4日(火) 湯上市天王▶

6月下旬から気温の日較差が小さく夜温が高い日が多くなり、草丈の伸長が促進されました。7月に入り日平均気温が平年よりかなり高く推移し、日照時間も梅雨明け以降に多くなったことで、稲の生育は草丈が急伸び平年より長く、莖数は平年並みからやや少なく、葉色はかなり濃い状況でした。圃場間格差も見受けられ、初期分けつを確保できなかった圃場を中心に莖数不足がみられました。要因として、降雨や夜温が高く莖数が少ない状況から窒素養分の吸収が増加したことで、葉色の濃度が上昇したと推測されます。7月の豪雨により、管内各地で農地などの冠水や河川の氾濫による土砂の流入などが発生し、甚大な被害に見舞われました。出穂期は、記録的な猛暑を受け高温や多照によって生育が前進したことで、7月30日頃と平年よりも早まりました。



### 登熟期～収穫期

9月15日(金) 秋田市外旭川▶

出穂期から9月中旬にかけて非常に高温で降水量が極端に少なく推移したため、「干ばつ」の被害が各地で確認され、籾の登熟への影響が懸念されました。

収穫は“経験のない記録的猛暑”が影響して、始期は平年より7日早い9月11日頃、盛期は3日早い9月25日となりました。9月中旬以降には降雨の日が多く刈り遅れを招き、品質面への影響が懸念されました。検査結果では、異常高温下による影響から「充実度不足」や「着色粒」などが見受けられ、1等米比率が低下する要因となりました。収量は籾数不足で減収傾向となり、管内の米の買い入れ状況は全品種合計で契約数量対比85%となりました。



### 1等米比率

支店	1等米比率		前年比
	5年産	4年産	
追分	51.8%	84.2%	-32.4%
飯島	33.7%	79.2%	-45.5%
秋田駅東	42.8%	88.3%	-45.5%
御野場	26.8%	70.0%	-43.2%
新屋駅前	58.6%	94.2%	-35.6%
雄和	52.3%	86.4%	-34.1%
河辺	49.6%	83.9%	-34.3%
秋田地区計	47.9%	86.1%	-38.2%

支店	1等米比率		前年比
	5年産	4年産	
男鹿	72.8%	93.0%	-20.2%
天王	67.1%	91.9%	-24.8%
若美	61.5%	75.8%	-14.3%
男鹿地区計	66.9%	86.4%	-19.5%